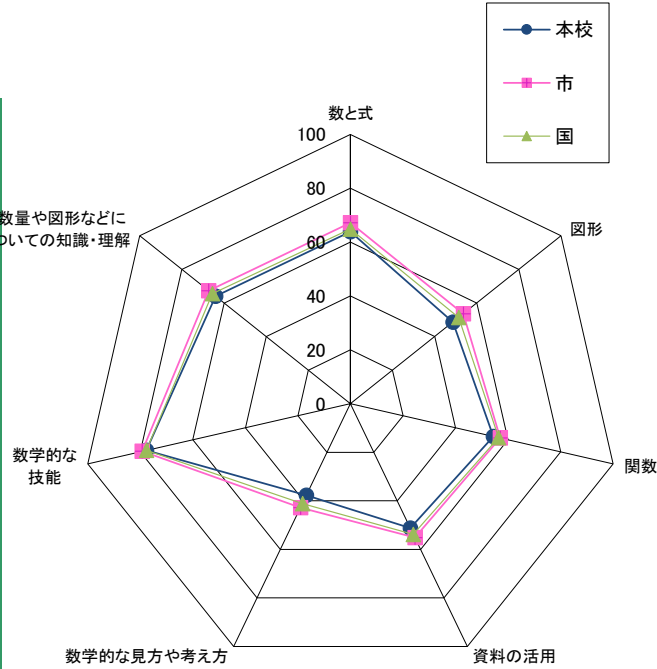


宇都宮市立陽南中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	63.9	67.2	64.9
	図形	48.6	53.6	51.4
	関数	54.4	57.0	56.4
	資料の活用	51.2	55.1	53.8
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	37.7	42.8	41.1
	数学的な技能	77.7	79.3	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	64.1	67.4	65.6



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は、全国平均とほぼ同じである。 ○問題場面をとらえ、事象について式を用いて確かめる問題では、80%の正答率である。 ●数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明する問題では、県・国平均値とほぼ同じであるが、30%で低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・計算の仕方に終始するのではなく、既習事項を押さえながら、計算方法が成り立つ理由に着目させる。多様な計算方法を比較検討することを通して、より効率的に計算できるように支援する。 ・定着度に応じた計算練習を、タブレットのキュービナを使用するなど場面を工夫して取り入れる。 ・数学的な事象を説明する場面では、文字式を使用することによって一般的に説明できることのよさをおさえる。説明の仕方をパターン化して示してい
図形	平均正答率と市平均正答率の差が-5%であり、他の領域の場合と比べて大きい。 ○扇形の中心角と弧の長さの関係や、錯角が等しくなるための2直線の位置関係などは理解されている。 ●四角形が平行四辺形になることの理由を説明する場面で、平行四辺形になるための条件の定着と説明力に課題がある。	・合同条件や平行四辺形になるための条件、相似条件の指導の際には、図と条件文を相互に対比させ、色別で表示するなど工夫する。 ・証明問題については、書くことに対して苦手意識が強い。何に注目したらよいのかなど、論証の筋道を丁寧に指導する。初期段階では、パターンの練習を繰り返し行い、論証の苦手意識をなくすよう努める。
関数	平均正答率は、市・国平均正答率と比べてやや低い。 ○与えられた表やグラフから必要な情報を読み取る問題の正答率が91%である。 ●与えられた表やグラフを用いて問題解決方法を数学的に説明する問題で、論理的に表現することに課題がある。	・各学年で学習する関数の特徴について、「式」「表」「グラフ」を関連させて言葉や表にまとめることを通して、理解を促す。 ・苦手な生徒には、表やグラフを書いたりする具体的な活動を大切に、2つの数量の関係と視覚化できることのよさを繰り返しおさえる。 ・日常生活の中で興味関心が高まるような身近な問題から、関数の値の変化や特徴をとらえ、自分の考えを文章で表したり発表したりする場面を設定す
資料の活用	平均正答率は、国・市の平均正答率より低い。 ○与えられたデータから中央値を求める問題の正答率が84%で、市の正答率を上回っている。 ●データの傾向をとらえて、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する場面で、無回答率が45%である。	・興味関心が高まるような身の回りの問題を取り上げ、分析する活動を通して、代表値をもとに比較する際の観点を明確にしたり、傾向を把握したりすることに慣れさせる。 ・国語科でも図やグラフを用いて論証を進める題材があることから、自分なりに気づいたことを言葉で表現できるよう関連を図る。